

第3学年〇組 道徳学習指導案

指導者 〇〇 〇〇

- 1 主題名 励まし合う友達 中学年2-(3) 友情・信頼
資料名 「しあいの日」 (東京書籍)

2 主題設定の理由

- 本学級の児童は、気の合う友達同士では誘い合って遊ぶ姿がよく見られ、友達と一緒に過ごす楽しさや心地よさを感じている子どもも多い。しかし、互いの思いを通い合わせることがうまくできず、けんかになったり、友達と一緒にいたいと思いつつも自分から遊びの輪の中に入れないうちもいる。友達のよさに目を向けさせ、助け合う大切さに気付かせることで、さらに、積極的に友達と関わっていけると考える。

そこで、本時では、自分にとっての友達の存在の大きさに気付きはじめたこの時期に、友達のよさに目を向けさせ、助け合うことで、お互いがあたたかい気持ちになることに気付かせたい。友達のことを思い、友達の気持ちに寄り添い、友達のよさに目を向けさせ、積極的に友達づくりをする態度を育てることは、意義深いと考える。

- 本主題は「友達と互いに理解し、信頼し、助け合う」ことをねらいとしている。

友達と互いに理解するとは、相手の気持ちやものの考え方を推し量ることであり、信頼し、助け合うとは、相手のことを信じて支え合うことである。そのためには、誠実さをもって交わることが必要であり、このことは、好ましい人間関係を保っていくための基盤となるものである。

本価値内容に関しては、低学年で「友達と仲よくし、助け合う」ことを学習してきた。そこで、本主題で、友達のよさに目を向けて、互いにかかわり合い、友達を理解しながら、互いに助け合う大切さに気付かせることは意義深いと考える。このことは、高学年の「互いに信頼し、学び合って友情を深め、男女仲よく協力し助け合う。」を考える学習へと発展する。

- 本資料は、気が弱くてドッジボール大会の練習に参加できない光一が、友達のよしえの励ましによって練習をがんばった結果、試合に勝つことができ、お互いに顔を見合わせてにこにこするという内容である。

本時指導にあたっては、中心人物光一の心情に共感させながら、友達と助け合う大切さを感じ取らせることによって、ねらいとする価値に迫っていきたい。導入では、アンケート結果をもとに、友達と過ごす楽しさを想起させ、本時めあてをつかませたい。展開1では、よしえに励まされる光一になって、役割演技をさせたり、練習中によしえが励まし続けてくれたことや光一の上達を素直に認める健二たちの言葉に注目させたり、また、友達に賞賛され、よしえと顔を見合わせてにこにこする光一の気持ちを考えさせることで、友達と互いに助け合うすばらしさを感じ取らせたい。展開2では、友達と「にこにこ顔」になったときのことを想起させ、自分を振り返らせたい。終末では、教師の体験談を話し、価値に対する意識の継続を図る。

3 本時のねらい

- ◇ 友だちの励ましによって変容した主人公に共感することを通して、友だちと助け合っていこうとする態度を育てる。

- 4 本時 平成21年11月25日(水) 第5校時 第3学年〇組教室において

- 5 準備 資料「しあいの日」, 道徳ノート
アンケート結果(グラフ), 板書用挿絵, 言葉のカード, ボール, 効果音

6 展開

段階	学 習 活 動	教 師 の 支 援
導 入	<p>1 友達といっしょに遊んだときの楽しさを想起し、本時のめあてをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ではできない遊びができて楽しい。 ○ 一人だったらさみしい。友達といると笑うことが多い。 ○ できないとき、分からないときに教えてくれる。 <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">めあて 友だちと助け合う心を考えよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ アンケート結果を提示し、遊んでいるときのことを想起させ、友達といっしょに活動する楽しさに気付かせることを通して、本時のめあてをつかませる。
展 開 1	<p>2 資料「しあいの日」を読んで、友達と助け合うことについて話し合う。</p> <p>(1) よしえから励まされる光一の気持ちを考え、話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ また、当てられて文句を言われるのはいやだな。それならやりたくないな。 ○ 練習したら、うまくなるかなあ。本当は、みんなといっしょにドッジボールをやりたいな。 ○ 練習をがんばってみようかな。 <p>(2) 練習や試合の時の様子を想起し、光一の気持ちの変化を話し合う。</p> <p>(3) 試合が終わって、みんなが集まってきたとき、よしえと顔を見合わせる光一の気持ちを道徳ノートに書いて、話し合う。</p> <p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">よしえと顔を見合わせてにこにこ顔になった光一は、どんな気持ちだったでしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 試合に勝つことができうれしい。 ○ 休まないで練習してきた、よかった。 ○ よしえさんが励ましてくれたから、がんばることができたんだ。よしえさん、ありがとう。 ○ みんながほめてくれて、うれしいな。 ○ 試合でボールを取るときは、みんなといっしょだという気がした。見守られている気がした。 ○ ほかにぼくみたいな人がいたら、励ましてあげよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の範読を通して、資料の概要をつかませる。 ○ 登場人物を紹介し、光一の気持ちを考えながら、話を聞くように促す。 ○ 挿絵に注目させ、光一の気持ちを考えさせる。 ○ よしえの励ましの言葉のカードを掲示する。 ○ よしえから誘われてもなかなか練習しようと思わない光一の気持ちを共感的につかませるために、光一役になり（教師…よしえ）役割演技をする。 ○ 役割演技をさせ、演技をしない子どもたちは光一の立場になって演技を見るように言う。 ○ よしえや健治たちの言葉カードを掲示する。 ○ 白熱した試合の様子や光一の頑張りを教師がボールを使って動作化しながら、光一の気持ちをとらえさせる。 ○ 試合が終わりみんなが光一のまわりを集まってきたとき、光一に言った言葉に注目させる。 <ul style="list-style-type: none"> ○ がんばった喜びと励まし続けてくれたよしえや褒めてくれたクラスみんなに感謝する気持ちをつかませるために、よしえと顔を見合わせて、にこにこ顔の光一の挿絵に注目させる。 ○ 価値の分類したカルテをもとに机間指導を行い、意図的指名をすることで価値に迫らせる。（喜び・努力→感謝・周りの支え→仲間・友情→助け合いへの意欲）
展 開 2	<p>3 自分の生活を振り返り、友達から励まされたり、友達を励ましたりした経験について発表する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達から助けられたり、友達を助けたったりしたときのことを想起させるために、心のノートや日記を提示し、光一やよしえと同じように自分にも友達を思い、やさしくする心があることに気付かせる。 ○ 机間巡視をして、子どもたちが書いていることを把握し、意図的に指名し発表させる。
終 末	<p>4 教師の話聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教師の話聞き、積極的に友達と関わっていかうとする意識の継続を図る。